

2008年4月5日 教育マルチメディア新聞 (7面)

3月11日、文部科学省が発表した中間報告で全国に約3万8000件(九州・沖縄地方を除く)もの学校裏サイト(スレッド)が存在することが明らかになった。株式会社ガイアックスは『人と人をつなげる』を企業理念に、これまでSNSやブログといったコミュニティサイトの運営をはじめ、より良いインターネットの利用環境を保つため、悪意のある書き込み等の発見・警告・削除等を行う「CGM監視サービス」を提供。昨年から学校裏サイト対策サービス「スクールガーディアン」を開始している。学校での運用も始まった同サービスについて、蔵田三沙代さん(ソリューション事業本部 オンラインマーケティング部)に話を聞いた。

『学校裏サイト』監視サービス『スクールガーディアン』

負担減らす  
相談窓口

PCや携帯電話が身近なものとなり、子どもたちは仲間意識から学校名をタイトルにした掲示板を気軽に立ち上げ、利用するようになった。書き込む内容は学校での出来事や好きな有名人やマンガの話など、大人の目が届かない学校生活の延長の場としてコミュニケーションをとるのに役立っている。

「問題のある書き込みは一部に過ぎませんが、様々な世界につながっているネットでの書き込みは、その内容が文字としていつまでも残り、トラブルの原因になります。携帯電話コンテンツの利用は大人よりの子どもたちの方が進んでいて、子どもたちの利用実態を教

職員や保護者が知る術がありません。そこで同社では昨秋、CGM監視サービスで蓄積したノウハウを活かして「学校裏サイトを監視するサービス「スクールガーディアン」の提供を開始、現在既に2校が導入・運用している。導入校で行った1か月間の調査では、それまでの3か月間に学校の名前が実状です」

「多くの方が、悪質なケースが代行する。また、



株式会社ガイアックス ソリューション事業本部  
オンラインマーケティング部  
蔵田三沙代氏

文教市場

企業のスタンス

問題サイトの発見・削除依頼・対応

実態把握でリテラシーの向上を

大手コンテンツプロバィン。子どもたちに適切イタと提携して、契約な使い方を習得してもする学校には専用の相らうためにも、先生方談窓口を置いて学校のや保護者の方々には子どもたちの利用実態を早期の対応が必要知って欲しいですね」

「早期の対応が必要」  
現実世界で児童生徒の人間関係の把握やいじめの早期発見が求められているのと同様、インターネット上のトラブルも早期に発見し適切に対応することが少なくない。学校関係者は忙しきも手が欠かせない。トラブル伝い、事件が起きてからでないと対策をとりにくい状況にあるが、それではやはり遅い。「誹謗や中傷の書き込みから発見まで時間がかかる」と、個人情報や画像が流出するリスクが高まるばかりか、被害者の負う心理的な傷も深くなってしまう。掲載板というコミュニケーションの場において、教育関係者向けは、これからの時代なのセミナーを開催する予定です。